

第2期越前市スポーツ施設再配置計画(個別施設計画) 概要版

計画の概要

本計画は、中長期的な視点で計画的に施設を保全するための基本的な方向性を定めることにより、利用環境の改善、ライフサイクルコストの縮減及び財政負担の平準化を図ることを目的とします。

- 施設配置については原則、当面は現状を維持する方針とします。
- 計画期間は令和6年度から令和15年度までの10年間とします。
- 本計画では、市内のスポーツ施設28施設を対象としています。

第1期計画の取組み成果と課題

- 新たに整備……………5施設(武生中央公園総合体育館・温水プール、サッカー場など)
 - 改修……………11施設(武生東運動公園庭球場・陸上競技場など)
 - 廃止・機能移転………10施設(武生中央公園野球場、今立中央公園水泳場、みどりと自然の村テニスコートなど)
- ※ 一部の課題は引き続き第2期に取り組みます。

第2期計画における個別施設の維持管理等計画

- 方針 1 安全性の確保

日常的に多くの人々が利用し、かつ災害時の拠点施設にもなる教育施設等において、耐震性の無い施設については優先的に耐震化を進めることとし、併せて老朽化の解消も図ります。
- 2 計画的な維持管理による長寿命化の推進

改修の節目となる20年前後毎に施設の劣化状況や財政状況、周辺施設の老朽化状況を総合的に鑑みて、計画的に施設改修を行い、躯体の寿命である築80年前後まで施設を長寿命化させ、費用平準化を図ります。
- 3 ユニバーサルデザインの推進

教育施設等の多くは避難場所にも指定されていることから、災害時にも安全性を確保でき、多様な人が障壁なく施設を利用できるよう、バリアフリー化を推進します。
- 4 環境に配慮した施設整備の推進

省エネ効果の高い空調設備やLED照明に更新していくことで、環境に配慮した施設へ整備していくとともに、ランニングコストの低減を図ります。
- 5 施設保有量適正化

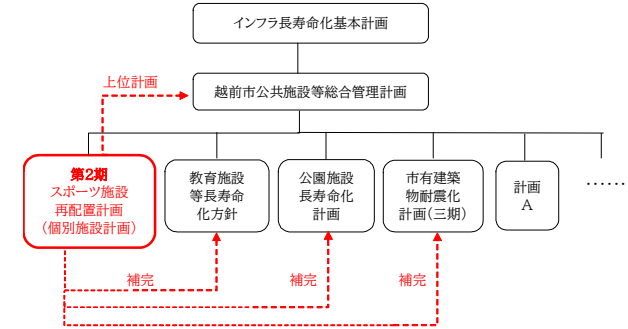
改修又は改築を実施する際には、周辺施設との相互利用・複合化又は他施設との集約化により、延床面積の縮減を図りながらも、利用可能面積の確保及び地域コミュニティ活動の拠点化を進めます。

新たな活動の場の確保に向けての環境整備

越前たけふ駅周辺は将来的に大きな発展が見込まれ、市民の期待が高い地域です。新たなスポーツ分野として注目されているアーバンスポーツやeスポーツの普及に取り組むとともに、スポーツツーリズムの促進のため自転車の駅(サイクリングステーション)を整備するなど、新たな活動場所の環境整備の取組を行うことで、市民のスポーツ機会の充実と居場所づくりを図っていきます。

<p>■新しいスポーツの活動場所の整備</p>	<p>BMXやスケートボードなどのアーバンスポーツは、近年、若い世代の方を中心に人気や関心が高まっているスポーツです。若者たちが集い、市民が交流をすることができる居場所をつくり、越前たけふ駅周辺のにぎわいの創出につなげるため、アーバンスポーツが楽しめる特色がある環境整備を進めてまいります。</p>
<p>■自転車の駅(サイクリングステーション)の整備</p>	<p>越前たけふ駅周辺にサイクリングの拠点となる自転車の駅を整備し、スポーツツーリズムの促進を図ります。</p>

第2期計画の位置付け



市有施設名	施設種類	第1期計画の方針	第2期計画の方針
武生中央公園総合体育館	体育館	維持	維持
瓜生水と緑公園体育館		維持	維持
今立体育センター		維持	維持
武生体育センター		廃止	廃止
大虫体育館		維持	維持
北日野体育館		維持	維持
北新庄体育館		維持	維持
武生中央公園多目的広場	屋外グラウンド	維持	維持
武生東運動公園ソフトボール場		維持	維持
武生東運動公園陸上競技場		維持	維持
サッカー場		維持	維持
家久スポーツ公園ソフトボール場		維持	維持
今立中央公園多目的広場	庭球場	維持	維持
武生中央公園庭球場		維持	維持
武生東運動公園庭球場		増改修	維持
家久スポーツ公園庭球場		維持	維持
今立南部公園庭球場		廃止	用途変更
今立テニスコート	水泳場	改修	維持
武生中央公園温水プール		縮小再整備	維持
家久スポーツ公園温水プール		維持	検討
武道館		武道場	維持
弓道場	維持		維持
白崎公園屋内ゲートボール場	屋内	維持	維持
みどりと自然の村	グラウンド他	庭球場等廃止	検討

※丹南総合公園内のスポーツ4施設(県有施設)を除く